

出題のねらい

英語の基礎力を正確に習得できているだけでなく、その基礎力を日常生活やアカデミックなシーンにおいて実際に運用できるかを試すことが出題のねらいです。

大問Ⅰは、文法、語法と語彙の基本知識の定着をみています。大問Ⅱは、富士山登山のコースの特色を述べていますが、空所を埋める適当な表現を見つけるためには、文脈を正確に理解するとともに、文法や語法の知識も必要になります。大問Ⅲは対話の問題です。2人がその日をどう過ごすかについての相談から、家具の展示を見に行くなどの計画の話が展開されます。空所の前後から自然な会話の流れを理解するコミュニケーション能力が要求されます。大問Ⅳは、ガーディアン紙の新聞記事を扱っています。文脈をたどりながら、内容を正確に捉えることが大切です。

【Ⅰ】

【解答】 (24点)

1	④	2	②	3	②	4	③	5	③
6	①	7	④	8	③	9	①	10	④
11	①	12	③	(各2点×12)					

【解説】

- 品詞の選択の問題です。ここでは副詞が必要です。
- 文構造から最上級の表現が必要です。
- 文意から適切な接続詞を選びます。
- 文構造から mine が必要です。
- 関係詞の問題です。ここでは所有格が適切です。
- 時制の問題です。普遍的真理を語っているので現在時制が適切です。
- 文構造から動名詞が必要です。
- イディオムの問題です。文意から適切な表現を選びます。
- 慣用的な表現の問題です。
- 仮定法の問題です。ここは仮定法過去が適切です。
- can't の中にすでに not が含まれていることに注目してください。
- 代名詞の問題です。words の代用になるのは those です。

【Ⅱ】

【大意】

山登りとハイキングは日本では人気の娯楽である。国土の70%以上が山であり、60%が森で覆われている国では、登山やハイキングをする場所が多い。おそらくもっともやりがいのある山登りは富士山である。その頂上へのルートは4つの選択肢がある。3つは静岡県からのルート、1つは山梨県からである。しかし、登山の季節は限られている。山梨県からの登山の季節は7月1日から9月10日まで、これは吉田ルートと呼ばれる。静岡県からの3つのルート、つまり須走ルート、御殿場ルート、富士宮ルートはすべて7月10日から始まり9月10日に終わる。もし登山の季節の始まりの日に吉田ルートを使うことを選べば、バスで新宿から富士山の第5駅まで行く。バスは午後に出発し第5駅に着くと夕方である。登山の目的は富士山の頂上に到着し日の出を見ることである。しかし、これはそれほど簡単ではない。まず、30度を超える暑い新宿を出発し、第5駅に着くと20度以下まで下がる。真夜中の間ゆっくり登山すると、気温はさらに10度以下まで下がる。そのうえ、酸素が少なく空気が薄くなる。もしも富士山に登る決意をしたら、容易な登山ではないと認識する必要がある。

【解答】 (30点)

13	④	14	①	15	⑦	16	②	17	⑤
18	⑥	19	⑨	20	⑧	21	③	22	①
(各3点×10)									

【解説】

富士山への登山ルートについて書かれたエッセイです。難易度の高い語彙は使われていませんので、空所の前後の単語に注意しながら、まず入るべき品詞を確認します。そして、文脈から意味を捉えて読み進めると解答をみつけることができます。

【Ⅲ】

【解答】 (15点)

23	⑦	24	⑥	25	⑧	26	①	27	②
(各3点×5)									

【解説】

メアリがベンにドライブに行くことを提案するところから、ふたりの会話が始まります。家具の展示を見に行く話から、道の駅のレストランで昼食をとり、明日のカレーの食材を購入する話や、帰りにも夕食をとる相談にまで展開していきます。対話文は情報のやりとりになりますから、話の展開に注意してください。

【Ⅳ】

【大意】

座りがちな生活様式の危険性に注目した最近の研究によれば、8時間机の前に座ることから生じる悪影響を相殺するためには、1日に少なくとも1時間の身体活動が必要であるらしい。PHEに採用されたWHOのガイドラインは、1週間に150分以上の運動を薦めているが、100万人以上のデータに基づく調査によると、多くの人々にとってはそれでは不十分である。

国際的専門家チームは、1日に8時間以上座りわずかな身体活動しか行わない人については、2年後から18年後の間に死亡する危険性は9.9%であるとわかった。それに比べて、座ることが1日に4時間以下で身体活動を1日に少なくとも1時間行う人については6.8%である。死亡の危険性がより少ないとわかった。また、1日に8時間座ることに結びつく危険性の増加は、身体活動を1日に少なくとも1時間行う人については生じないとわかった。スポーツ科学ノルウェー校とケンブリッジ大学の主筆ウルフ・エケルンド教授は、「スポーツをしなさい、ジムに行かなくてもいい。きびきび歩けばいい、たぶん午前中、昼食時、夕食時に。1日のうちで分けて、少なくとも1時間運動する必要がある。」と語った。

水曜日の『ランセット』に発表された論文は、過去の16の論文のデータを分析した。このデータの調査対象は、アメリカ、西欧、オーストラリアの45歳を超える年齢の人々である。執筆者たちによれば、時速5.6キロで歩いたり、時速16キロで楽しんで自転車に乗ったり、まあまあ強度の運動を1時間すれば、長時間座った悪影響を十分相殺できる。

仕事のプレッシャーで長めの休憩（英国での法律上の最低時間1回20分）をとることが現実的でない人々もいることを、エケルンド教授は認めており、「1日に1時間の身体活動をするのは容易でないが、英国で大人がテレビを視聴する平均時間は3時間6分くらいであり、3時間を超える。この3時間のうちのわずかな時間を身体活動に充てることを求めるのはやり過ぎであろうか。」と言った。さらに、「プリンターまで行くためでもいい、仕事1時間ごとに5分間の休憩をとることも役立つであろう、文化の変化を促進することは雇用者の利益になる。」とエケルンドは言った。

同一のシリーズの一部として水曜の『ランセット』に発表された別の論文の推定によれば、身体を動かさないことによる世界経済への損失は、1年につき675億ドル（515億ポンド）であり——英国だけで17億ポンド——医療に588億ポンドかかり、生産上の損失は137億ポンドである。

組織に属さない専門家たちは、エケルンドとそのチームによる研究を論評して、座る時間を減らせることを示唆することは人々の励みになる、と言った。ボーンマス

公募制推薦入試／英語(後期)

大学のスポーツ科学の講師エリカ・ボルコルス博士は、「比較的長時間座る人たちは、気を付けるべきであり、この研究の知見を予防的行動のための機会として受け止めることができるであろう。」と言った。

WHOの広報担当者は、「座りがちなふるまいに関する勧告はまだ活用されていない。しかし、WHOはすでに、人々が暮らし働く環境を身体活動し易くするための政策を実行するように、各国政府に勧告している。」と言った。PHEは、10分でも運動すれば効果があるであろう、と言った。エケルンドと彼のチームによれば、もっとも身体的活動が活発な人たちは除くとしても、1日3時間以上座ってテレビを見ていると、それ以降の時期に死亡する危険性が增大する。この危険性は、座る総時間と結びつく死亡危険性よりも、少し大きい。なぜなら、テレビ視聴は、運動をしない傾向であるとか、一般により不健康な生活様式を示唆しがちであるからだ。視聴しながら、不健康にもお菓子を食べるかもしれないのだ。

問2

(32) (33)

空所Aは、compared with 6.8% for those となります。

(34) (35)

空所Bは、was enough to offset the となります。

(36) (37)

空所Cは、inactivity costs the global economy となります。

【解答】 (31点)

28	①	29	④	30	⑦	31	⑧	
(順不同OK) (各4点×4)								
32	④	33	②					(5点)
34	①	35	②					(5点)
36	①	37	③					(5点)

【解説】

問1

- ① 第1段落に、内容が一致する記述があります。
- ② 第1段落の終わりにある記述は、異なる内容を語っています。
- ③ 第2段落の記述によれば、9.9%でなく6.8%です。
- ④ 第2段落に、内容が一致する記述があります。
- ⑤ 第2段落の記述によれば、午前中に限定していません。
- ⑥ 第3段落の記述は異なる内容を語っています。
- ⑦ 第4段落の始めに、内容が一致する記述があります。
- ⑧ 第4段落に、内容が一致する記述があります。
- ⑨ 第5段落の終りの記述は、異なる内容を語っています。
- ⑩ 第6段落の記述は、異なる内容を語っています。